

7
月



美園小だより

令和 7年6月30日
さいたま市立美園小学校
第180号 児童数 1043名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

ツバメ

校長 河野 秀樹



学校のピロティをツバメが素早く飛び交い、職員玄関の脇にある巣を、子どもたちは静かに見上げていました。「ツバメ」と聞くと、以前読んだアイルランド出身の作家オスカー・ワイルドの「幸福の王子」という物語を思い出します。

町の広場に立つ幸福の王子の像の足元で、一羽のツバメに王子の涙が落ちてきます。王子は、町の人々の様子を悲しみ泣いていました。それから王子はツバメとともに、貧しい人々のため自分の持っている宝石や体を覆っている金箔を分け与えていきます。すると、町の人々は宝石も金箔

も無くなってみすばらしい姿となった王子の像やツバメの死骸を見て、美しいものは役に立たないと捨ててしまいます。ところが、天使は、神様に「この町で一番美しく尊いものを持って来るように」言われると、王子の鉛の心臓とツバメの亡骸を持っていったのでした。

この話をもとに書かれた 15 歳の少女の作品「小さなツバメの大きな夢」から、YOASOBI は「ツバメ」という曲を作りました。現在も、NHKの番組のテーマソングとして歌われています。歌詞には「同じ空の下で 僕らは 色とりどりの命と この場所で 共に生きている それぞれ 人も 草木も 花も鳥も 肩寄せ合いながら 僕らは 求めるものも 描いてる未来も 違うけれど 手と手を取り合えたなら きっと 笑い合える日が来るから 僕には いま何ができるかな」とあります。

美園小の子どもたちが大人になるころには、どんな社会になっているのでしょうか？少子高齢化やグローバル化、デジタル化、多様化などが今よりも一層顕著になっていることでしょう。「自分さえよければ…」という風潮がある中、子どもたちには、他者のために尽くす行為は美しいものだと感じる心をもってほしいと思います。先日行われた学校運営協議会では、6年生児童が数名参加して、「学校と地域をつなぐために、私たちにできること…」というテーマについて、委員とともに対話をしました。この話し合いで語ってくれたように、美園小の子どもたちには、誰もが手と手を取り合って、笑い合える未来を創り出すため、「自分にできることは何かを考え、実行しようとする」大人になってほしいと願います。

参考：「ツバメ」 歌：YOASOBI with ミドリーズ 作詞・作曲・編曲：Ayase